

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170200390
法人名	医療法人 なごみ会
事業所名	医療法人なごみ会酒井医院 グループホームなごやか
所在地	佐賀県唐津市鎮西町名護屋4198 (電話)0955-82-2618

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年7月17日	評価確定日	平成20年9月2日

【情報提供票より】(平成20年6月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 16 人

(2)建物概要

建物構造	木造一部鉄骨平屋造り
------	------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,200 円	その他の経費(月額)	10,800 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(6月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療穂人なごみ会酒井医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

名護屋城跡を望む静かな環境に建つ平屋建て2ユニットの事業所である。デイサービスセンター・居宅支援事業所と隣接しており、入居者とデイサービス利用者との交流も行われている。防災に力を入れており、災害形態に合わせた防災マニュアルがある。また、地元消防団の指導で隣接する地域指定の避難場所に通じる裏門を新設するなど、安全に配慮した生活が提供されている。ホームの敷地内は四季を通して花や果実・野菜に恵まれ、小鳥が多く集まるなど入居者や近隣住民の目と耳を楽しませている。収穫した野菜は副菜として食卓にのぼり、果実は入居者が共同作業でジャムに加工するなどし、活用している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果は職員会議などで取り上げ、改善課題となったものは検討を重ねてサービスの向上に活かしている。改善課題となった運営推進会議の充実では委員の意見を取り上げ、具体的なサービスの改善につなげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で取り組み、ケアの振り返りや見直しにつなげている。今回の評価結果は地域の会議で報告したり運営推進会議で取り上げ、より質の高いサービスの改善につなげる計画である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>入居者の日々の状況や行事報告、双方向の活発な意見交換が行われ、ケアサービスの向上やホームの理解を深められるよう活用している。防災にも力をいれ、委員の提案で消防団との連携も図られ、避難訓練の充実や避難口を新たに設置している。運営推進会議当日に委員の要望を聞いて次回開催日を決定しており、出席率の向上につなげている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時に管理者は必ず声を掛け、話をする心を心掛けており、入居者の日常の様子や健康状態を伝え情報交換している。重要事項説明書に事業所における苦情申し立て先及び方法、第三者委員を明記し、家族に説明している。玄関には投函箱も設置されている。出された意見は会議にかけられ、サービスの改善に繋げている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会し、地域の一員として地元と交流することを心掛けている。自治会の会議には運営者自ら出席し、地域との関係作りに積極的に関わっている。清掃活動や地域の祭りにも参加し、地域になじんだごく普通の近所づきあいができている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心なごやかに」という基本理念のもと、自然を感じ地域で楽しく生活することを意識した事業所独自の介護理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内複数個所に理念を掲示し、日頃から理念の共有に努めている。職員の採用時に理念の重要性を指導しており、職員の入居者に対する声掛けや態度から、理念に沿った介護が実践されている事が窺える。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、地域の一員として地元と交流することを心掛けている。運営者は自治会の会議に自ら参加する他、祭りに参画したり地域の清掃活動に参加するなど地域との関係作りに積極的に関わっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果は、職員会議や運営推進会議で取り上げ、改善課題となったものは検討を重ねてサービスの向上に活かしている。今回の自己評価は全職員で取り組み、ケアの振り返りや見直しにつなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地元代表や介護相談員・家族・行政職員などからなり、2ヶ月に1度開催されている。出席率も良く、活発な意見交換があり、出された意見は日常のサービスに活かされている。また、議事録他関係書類も残されている。	○	自己評価や外部評価の効果をより高めるためにも、評価で明らかになった課題への取り組みや改善経過のモニター役になってもらうなど、今後は評価と運営推進会議を一体的に活かしていくような取り組みも期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政関係者と密に連絡を取り合い、相談できる関係ができています。行政からボランティアの受け入れなど情報提供もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1度「ホーム便り」を発行し、ホームでの様子や行事の日程などを知らせている。利用料金を持参される時や面会時に管理者は必ず声を掛け、話をするを心掛けており、入居者の日常の様子や健康状態を伝えている。日常の様子に変化があった時は自宅を訪問したり、電話をして報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所における苦情申し立て先及び方法、第三者委員を明記し家族に説明している。玄関には投函箱も設置されている。家族から出された意見は会議にかけられ、サービスの改善につなげる体制ができています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	地域密着型事業所としての特性を考え、基本的に異動は行われていない。離職も最小限に抑える努力をしており、離職は早期に申し出るよう就業規則に定めている。異動がある時は入居者との馴染みの関係を重視し、引継ぎ期間を長くするなど混乱を防ぐ配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の開催情報は職員に伝えられ、希望すれば勤務の変更などを配慮して参加できるよう支援している。法人内の研修や事業所独自の研修など、多くの研修の機会が確保されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、地域の同業者とは相互訪問・見学会や情報交換など活発な交流が行なわれている。また、個人的に同業者と情報交換している職員もおり、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が自宅を訪問したりホームの見学を通して、顔馴染みの関係を作りながら入居できる支援が行われている。ホームの見学時間を調整し、入居されている方と交流したりホーム内を知ってもらうなど安心して入居できる支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理方法や花壇・菜園の管理、お茶の淹れ方や洗濯方法など職員が入居者から学ぶ事も多くあり、支え合う関係が作られている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活を通して入居者とふれあいながら思いや意向を汲み取るように努めている。困難な場合は家族や友人の面会時に情報を得る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族、主治医と十分話し合い具体的な介護計画が立てられている。職員は日々の暮らしの中で気付いた情報を主治医や家族に伝え、介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎の定期見直しと状態の変化があった時はその都度見直しが行われている。毎月介護計画のモニタリングが行われ、現状に即した介護計画の見直しにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の希望で、病院の送迎や帰宅・買物などの外出支援が柔軟に行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医受診の継続を支援し、安心して医療を受けられるような体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合及び看とりに関する指針があり、契約時に説明し同意を得ている。介護計画の変更時や体調の変化があった時等は入居者の状態に合わせて家族と話し合いを持つ体制ができており、主治医や職員全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日頃から理念を念頭に置き、入居者の尊厳を大切に、誇りやプライバシーを損ねることのない様言葉かけや対応に配慮している。個人情報の記録簿等もプライバシーに配慮され適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れは決まっているが、それにとらわれる事無く天気や入居者の希望を大切にした支援を心掛けている。散歩や買物など個人の希望に添った支援も心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は隣接のデイサービスから運ばれてくるが朝食や夕食は入居者も調理に参加している。配膳や片付けなど入居者ができることは、職員が見守りながら支援している。食事中はテレビを消して静かな音楽を流すなど、雰囲気づくりにも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望される入居者には毎日の入浴が可能である。基本的には一人で入浴されるが、仲の良い友人と一緒に入る方もおられ、ゆっくり入浴を楽しめる支援がされている。入浴を拒まれる入居者には時間や順番を変えたり、職員の声掛けで入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の用意や片付け、洗濯や掃除、園芸や菜園づくりなど生活歴を活かした役割や楽しみごとがあり、入居者主体の支援がなされている。入居者の誕生会は誕生日当日に開催され、本人が主役の催しを用意するなどし、入居者全員の楽しみとなっている。職員は入居者一人ひとりの力を発揮する場面作りの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地面積が広く入居者は自由に庭や畑に出ることができ、職員は見守りながら支援している。買物や散歩・ドライブなど入居者が希望されれば職員はできる限り支援している。天気の悪い日などは隣接のデイケアで運動やレクリエーションに参加するなど、ホームに閉じこもらない生活を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで、日中の出入りは自由である。ホーム内随所から出入り口の見通しが利く構造であり、職員は見守りながら支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や行政担当課、地元消防団と協力体制が確立されており、災害時を想定した防災訓練も実施されている。近隣住民との協力体制もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士がみており、栄養バランスの把握はできている。入居者の体調に変化があるときは栄養士に伝えられ、即、献立に活かせるような体制ができています。水分摂取量は細かく記録され体調管理に活かしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下・居間には休憩用の椅子やソファが多く置かれ、季節の花も飾られて居心地良く過ごせるよう支援されている。建物自体が自然光を多くとり込める構造で、ホーム内は明るく風がよく通る様工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には希望の品を自由に持ち込める。机や椅子・タンス・ソファ・仏壇を持参している入居者もおられる。壁には写真やカレンダー・手芸品が飾られ、その人らしい居室作りがなされている。		